

ボランティア活動の支援と 人材育成のための講習会

公益目的事業第2部門は、例年ならば、福祉施設や医療機関などでのコーラス、楽器演奏、民謡、書道、華道、茶道など多彩なボランティア活動が年間約40件も行われて大変喜ばれていましたが、令和2年度以降、ウイルス感染を防ぐために、受け入れ側も奉仕側も活動を自粛しているの
で、ボランティア要員の派遣と助成を行う本事業部門は休止状態となっております。

生涯学習のための伝統文化習得とボランティア活動の担い手育成を目指す「京都鴨沂会文化教室」は、各分野の特性に従って異なる対応をとっています。高校留学生のための日本文化体験学習会は、令和4年2月に日本滞在中の留学生を対象にしてようやく開催することができました。

「京都鴨沂会文化教室」

茶道教室	講師	吉田宗翠
華道教室	講師	中谷豊甫
能楽教室	講師	惣明貞助

香道教室 講師 早川光葉

紹ざし教室 講師 北村悠紀子

ハワイアンフラ教室 講師 ユミコ レイモミ

文化教室は、科目によって、マイクロ飛沫や身体の密着度などが異なるので、それらを勘案しながら開講・休講の判断を講師と相談して決めました。その結果、科目ごとに年度を通して休講、状況に応じて数回開講、緊急事態宣言発出中以外は通常通り開講と科目によって異なる対応となりました。

「高校留学生のための 日本伝統文化体験学習会」

令和4年2月26日 於 鴨沂会館

茶道 裏千家 講師 吉田宗翠

「薄茶点前の実演と呈茶及び留学生の益略点前の実習」

華道 未生流笹岡 講師 中谷豊甫

「伝統文化を踏まえた生け花の実習」

書道 講師 中村美知生

「書道の基礎知識・基礎技術・作品制作」

ネパール、パキスタンから立命館宇治高校へ、マレーシア、フィリピンから立命館高校に留学している高校生、付き添いの日本大学生が参加して伝統文化体験学習会が行わ



れた。副会長挨拶と留学生、講師その他の参加者の自己紹介の後、日本伝統文化についての講義及び茶道、華道、書道の実技体験が行われた。実習終了後、留学生は伝統文化体験結果の発表と感想文の作成を行い、写真撮影をして閉会した。

「留学生の生け花の実習」

未生流笹岡 中谷 豊甫

コロナ禍のために、今回は3年ぶりの体験学習会となりました。アクリル板の立てられたテーブルには、何とも言えない緊張感が感じられました。

留学生の方々と共に、日本人の大学生も体験をなさいました。開会式で自己紹介の後、華道から体験学習会がスタート。最初に生花の花姿の理論を説明し、デモンストラーションをご覧いただきました。そして、いよいよ実技です。花材を見極め枝を切り剣山にさし、各々作品をいけあげられました。時節柄、私語もなく正に肅々と取り組まれました。学習会では、作品が出来上がりますと、それを前にして全員で記念撮影を致します。その後、生徒さん達にはお花を持ち帰る時の包み方と、帰ってからの扱いについて説明をします。

花器がなければペットボトルでもグラスでもいいので、お花をいけて、蕾から花が咲いて散るまでを見届けてほしいと、いつも話しています。何故なら、お花と人間の一生が重なるからです。お花を通して、命の尊さを学んでいただけならと願っております。

「留学生の盆略点前の実習」

裏千家 吉田 宗翠

2月に久しぶりに、留学高校生の体験学習会が開かれました。今回も盛況で足の痛さも苦にならない程に、興味津々でした。席入り後、床の説明等も良く理解された模様です。次に抹茶の点前を披露し、二月のお菓子「こぼれ梅」で全員に一服差上げました。その後、各自で盆略点前の実習を



していただきます。まず袱紗さばきを学習、続いて棗、茶杓を清め、茶筌通しをし、茶巾で茶碗を拭き、各自で棗から茶杓で茶をすくい茶碗に入れる。ポットの湯をそそぎ、茶筌を振って茶を点てる。この一連の点前を三人で指導しました。

会記

床 「日々是好日」 国体寺 心田老師

香合 ほたて貝 梅の花

花 水せん・椿

花入 常什

水指 黄ごうち

棚 四方卓

薄器 菊桐蒔絵大棗

茶杓 「峯の松風」 紫野龍源院 光 秋 造

茶碗 ひなの絵 赤野昭山 細合唱道 作

蓋置 奈良絵 赤膚昭山 造

茶 ぼんぼり

茶 富獄 柳桜園 詰

菓子 こぼれ梅 亀広脇 製

令和四年二月二十六日 鴨沂会茶道教室 吉田宗翠

「京都鴨沂会の素晴らしい取組みに敬意を！」

中村 美知生

『花も好し 枝ぶりはなお 梅の影』 美知生

近在の梅宮大社の梅見客も増え始め、「今朝は寒さも和らぎ暖かい。」とは僕の日記。そんな2月26日土曜日の午後に鴨沂会館へ。留学生の日本伝統文化『茶・華・書』体験学習を素晴らしい取組みだと思つたし、御世話になつている荒木泰子先生の依頼だし…と引き受けたのだった。

ところが…である。定年退職で12年前に教員生活から『書』からも離れ、絵画や版画制作だけの日々を続けてきた僕だ。『教育』や『書』を忘れた僕にできるのか…と、不安を抱えながら鴨沂会館へ向かつた。

学習としては基礎知識・基礎技法・作品制作の3本柱を考え、準備していたのだが…。案の定、不安は的中！時間配分感覚は完全に消え失せ、結び部分の無いままでウヤムヤの内に学習を終了。皆さんには迷惑をかけたし、受講者諸君はよく我慢してくれた。また、体験学習として伝わったものがあつたのか？…とも反省しきりであつた。そして体験学習では100分程は欲しいとも感じた。

留学生とボランティア大学生の受講者諸君が真剣に取り組んでくれていただけに残念である。

最後に、京都鴨沂会が『高校留学生 日本伝統文化体験



学習会』という素晴らしい取組みを継続されていることに敬意を表したいとも思って鴨沂会館を出た。

バスの中で、細い路地の奥に射す春の夕陽を見つけた。

『京町家 細き路地にも 春光る』 美知生

「高校留学生日本伝統文化体験学習会報告」

A F S 京都支部顧問 荒木泰子

コロナ感染が収まらない中、鴨沂会様に万全の対策をとっていただき、2月26日土曜日午後行われました。留学

生もコロナの影響で入国が制限されていて、受講できたのは「アジアの架け橋」で京都と三島地区に来ていたマレーシア、フィリピン、ネパール、パキスタンからの4人だけという寂しいものでしたし、土曜日も授業があったため、開講を1時間遅くしていただいたのに、昼食もとらずに来た生徒もいたりという状態で始まりました。

鴨沂会様のほうでも、講師確保が難航し、書道講師はこちらが頼み込んだ墨アーティスト中村美知生氏、理事さん方、職員さんもお忙しく、矢島理事、中村さんに万事対応していただき、花瓶や硯の始末まで大変ご苦労をおかけしました。

それでも、華道ではバラ、カスミノウを図と数字で教えていただいて、なんとか活け、書道の後には先生寄贈の色紙や墨を持ち帰った生徒もいました。茶道では、感染予防のため、留学生の横ではなく、後ろに日本人大学生が座るという異例の座り方でしたが、入室時の挨拶やお床拝見の作法も教えていただいて、お茶とお菓子を楽しんだようでした。お茶室には今回は大人は入らせていただけず、現場は見られませんでしたが…。

コロナ感染症のせいで、何かとおちつかず、ゆとりのない状況下ではありましたが、鴨沂会様のおかげで今年も生徒達に貴重な体験をさせていただきましたことに関係者一同あつくお礼申し上げます。